

スヨ ケヒガ ル AM

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止



某日——

AM 6:30

いつも通りの
時間——

いつも通りに
朝日の眩しさを受け

いつも通りの
下半身の温もりと
軽い圧迫感で目を覚ます

もぞもぞと動く
盛り上がった布団を
めくると



いつの間にか潜り込んで
愚息を啜えている
橙と目が合う



おはよう……

おはよう
ございます



挨拶を交わすと
橙は奉仕を再開し

朝勃ちで
そそり勃った愚息を
小さめの口と舌で
丹念に舐め回す

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ



深く啜えられる度
歯がつんつんと
当たって心地よい

橙の頭を
軽く押さえると
待ち遠しそうに
視線を向けてくれるので

射精の瞬間
喉奥まで押し込み
精液を食道へと流し込む



ビュッ



流石に
苦しかったのか
跳ねるようにして
愚息が吐き出される



口から
精液をこぼしながら
咳き込む橙をよそに

吐き出された精液が
可愛い顔を
容赦なく汚していく





ひとまず外の井戸で
顔を洗ったり
水を汲みに行く

キキキ...

AM 6:47



橙の機嫌を損ねて
しまったよう

ツーンとした顔で居座り
無言の抗議を行ってくる



が

フ...



作業が
できないので
素直に
謝ることにした

最後には
背中に
よじ登られ

謝罪代わりの
キスをせがまれたので
優しく額に落としてやる



おはよう
うきまーす

AM 6:54

おん……
おはよう

もうすぐ
朝餉ができるからな

橙は紫様を
起こしてきてくれ

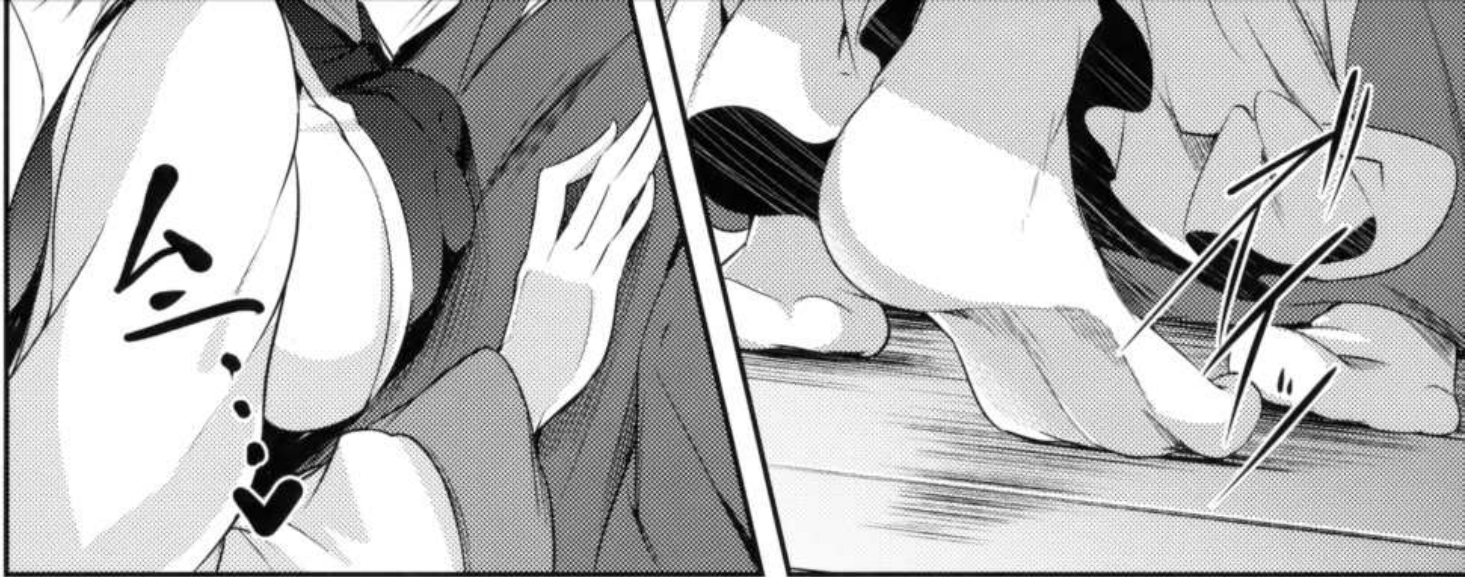
はい

藍様、何か
手伝えることは……

んー
そうだな……

それよりも……

朝から橙が
粗相をしたようだな？





慣れた手付きで
愚息を露出させられ
胸の谷間に包み込まれる

柔らかく暖かい快感に
情けない声が出るが
出そうになるが
我慢してこう一言



うあ
……なんで
胸の部分に穴が？

ん？
そんなの
決まっているだろう



ん？
お前は
服を着たままする方が
興奮するんだろう？

ん？
ほら……
いっぱい……
出していいぞ……

我慢も虚しく
優しく包み込まれながら
藍の胸の中に射精する。

脈打つ度に
形を変える柔らかさが
愚息を通して感じられ

まるで
蕩けていくような快感が
下半身から脳まで
駆け足で伝達していく

あーあー
こんな
射精して……

おっばい
ドロドロじゃないか……



それだけ言うと
精液を拭いもせずに
藍は服を整える



胸の中
凄いいことに
なってるぞ.....?

.....
温かいなあ

ふふ.....

たば.....



若干
気恥ずかしいような
申し訳ないような

そんな
困ってる様子を
ニヤニヤと
笑われてしまった

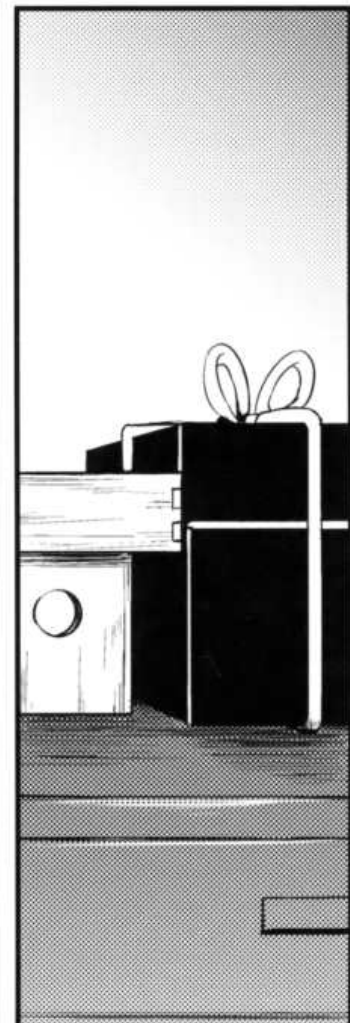
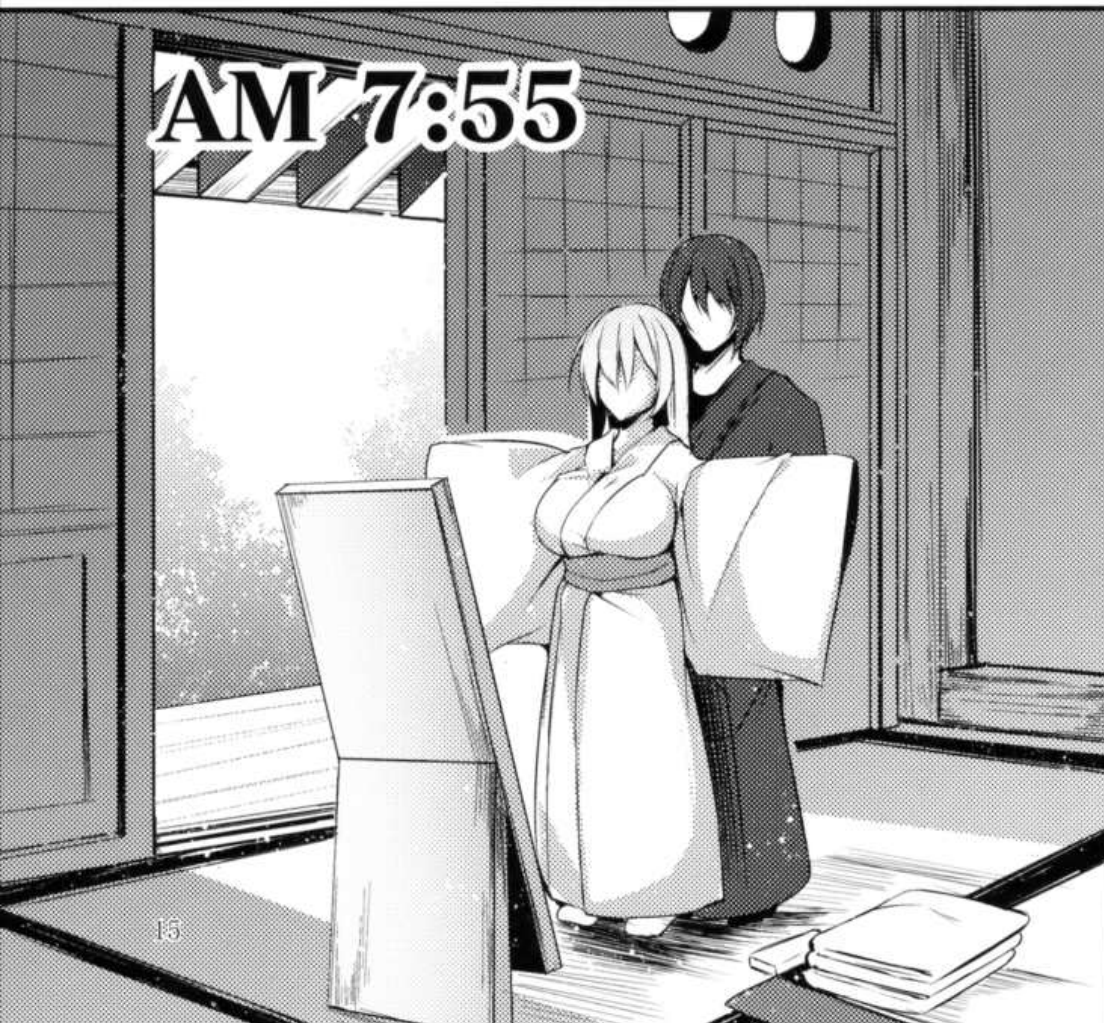



気怠さと戦いつつ
無理矢理気味に
胃に食事を運ぶ



その後起きてきた
紫様を含め
みんな朝食


AM 7:23





紫様にねだられ
綺麗な身体に見惚れつつ
着付けを手伝う

決して
良い手際とは
言えないが――



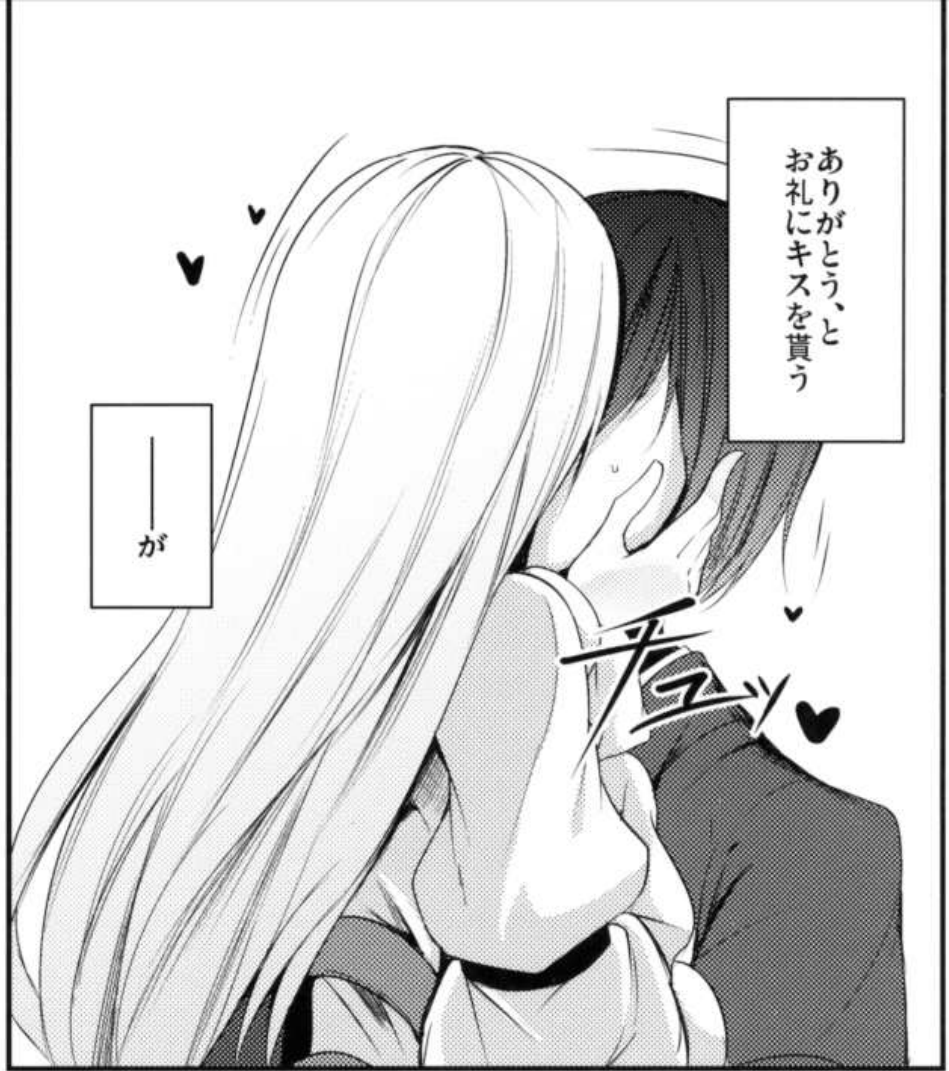
それなりに
満足して
もらえたようだ



ニ

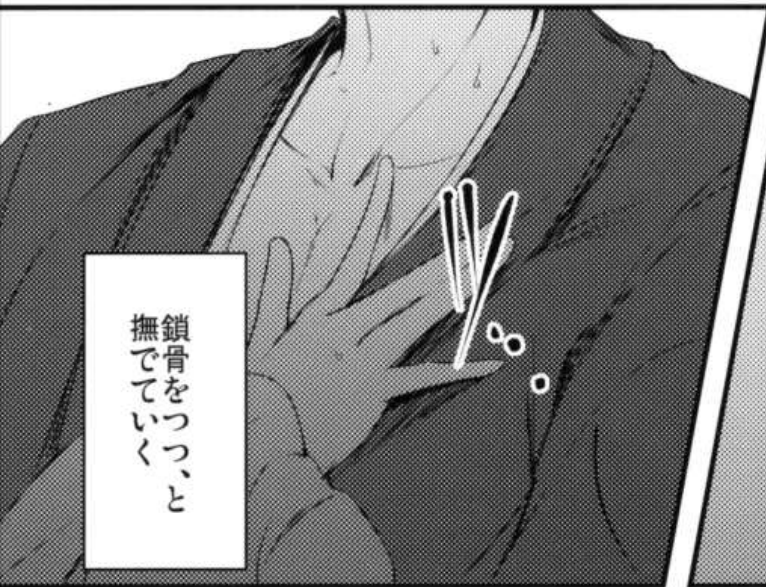


お礼にしては
妙に長く、情熱的で



ありがとう、と
お礼にキスを貰う

—
が



鎖骨をつつと
撫でていくと



頬に
添えられた指が
首を辿り



あら—

—張羅に
皺がつかますよ、と
制止するが—

私はあなたになら
汚されても
構わないのだけれどね

AM 8:04

気付いたら
その場で紫を
組み伏していた

きちんと整えたはずの
衣服なんか
お構いなしに

強く抱擁し、
胸を揉みしだき、
口内を貪る



露わになった
綺麗な内腿を
撫でまわすと

拒むよう
きゅっ足が
閉じられる

可愛らしい反応を
楽しみながら
白い肌に
手を滑らせていく

顔が
蕩けてきたのを
見計らい足を開かせ

あてがった患息を
一気に最奥まで
挿入する

まだ日が
昇りかけなのに
も
関わらず

お互い
我慢できずに
求め合う

腰を
打ち付ける度に
水音が響き

可愛い嬌声が
紫の口から漏れる



絶頂寸前で
紫の膣内から
愚息を引き抜き

思うがままに
白濁液を
ぶち撒ける



ただただ
言葉通りに

紫を
汚すためだけに
至る所へ
精液がかかっていく



紫は
呆れながらも

恍惚とも
母性ともとれる
微笑みを浮かべながら
欲望を受け止めてくれた




しかし紫様は
『いいわよこのままで』

軽く乾拭きしただけで
それ以上のことを
拒んできた



AM 8:55


我に返り
紫様に謝罪しながら
後始末をしていく




少し戸惑ったが
頬を赤らめ
口に手を当てる

そんな紫様を
見てしまったら
それ以上言及は
できなかつた

AM 9:16



紫様の外出を
見送った後
藍様の手伝いへ



手伝いの途中でも
紫様が
自分の精液まみれで
出かけていると思うと

なんだか変に
意識してしまい



藍様に怪訝な顔で
見られた



裏の焔に
向かう途中
感づかれたのか
廊下で藍様に誘われる

サワ...

ナゲ...

AM 9:54



正直そろそろ
きついが
断るのも悪いし

紫様の事で
ムラムラしてたのは
確かなので
お言葉に甘えることに

後ろから抱きとめ
大きな乳房と細い腰を
服の上から堪能する

モ...

キ...




藍も
昂ぶってきたのを確認し
壁に手をつけさせ
片足を持ち上げ挿入する




藍の膣内は
蕩けるように熱く
うねるように
愚息を飲み込んでいく



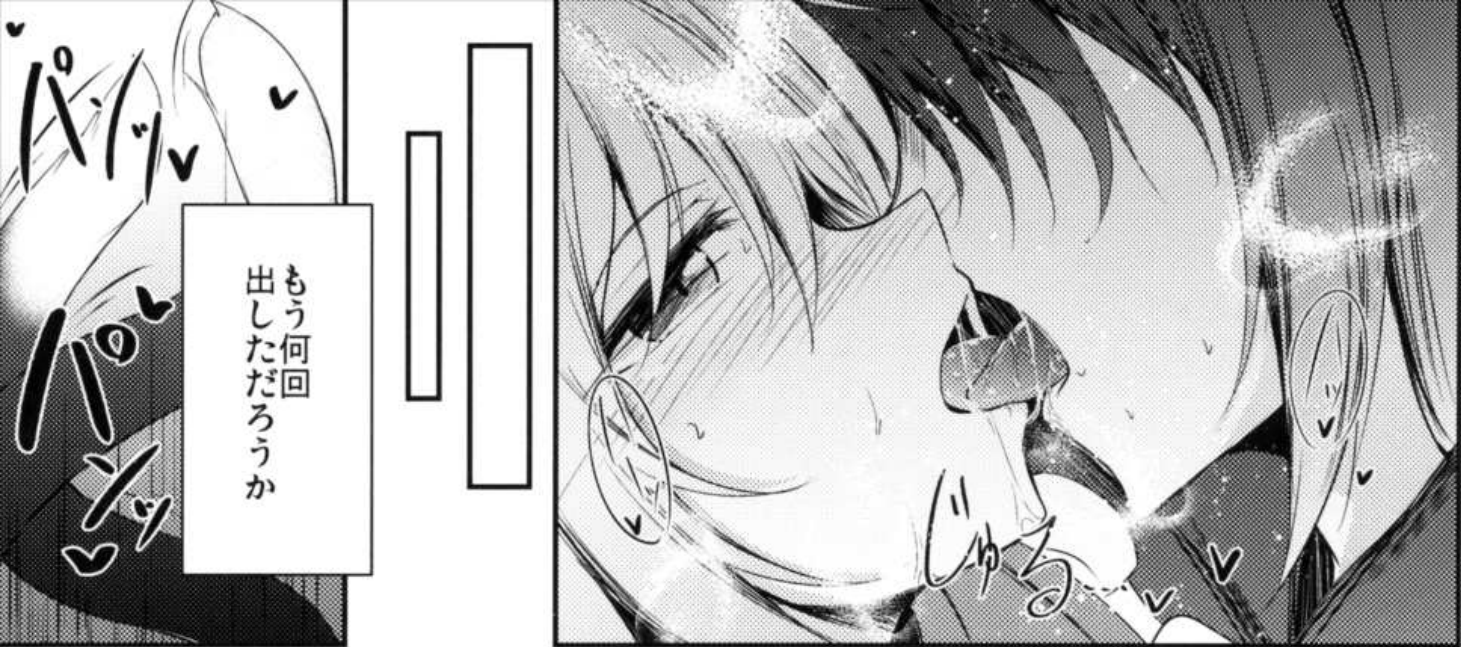


藍の柔らかさを
全身で堪能しながら
息を吐く暇も与えず
腰を打ち付け

胸いっぱい
藍の香りを味わいながら
最奥に精液を流し込む



切ない声を上げ
藍も身体を
ビクンと跳ねさせた



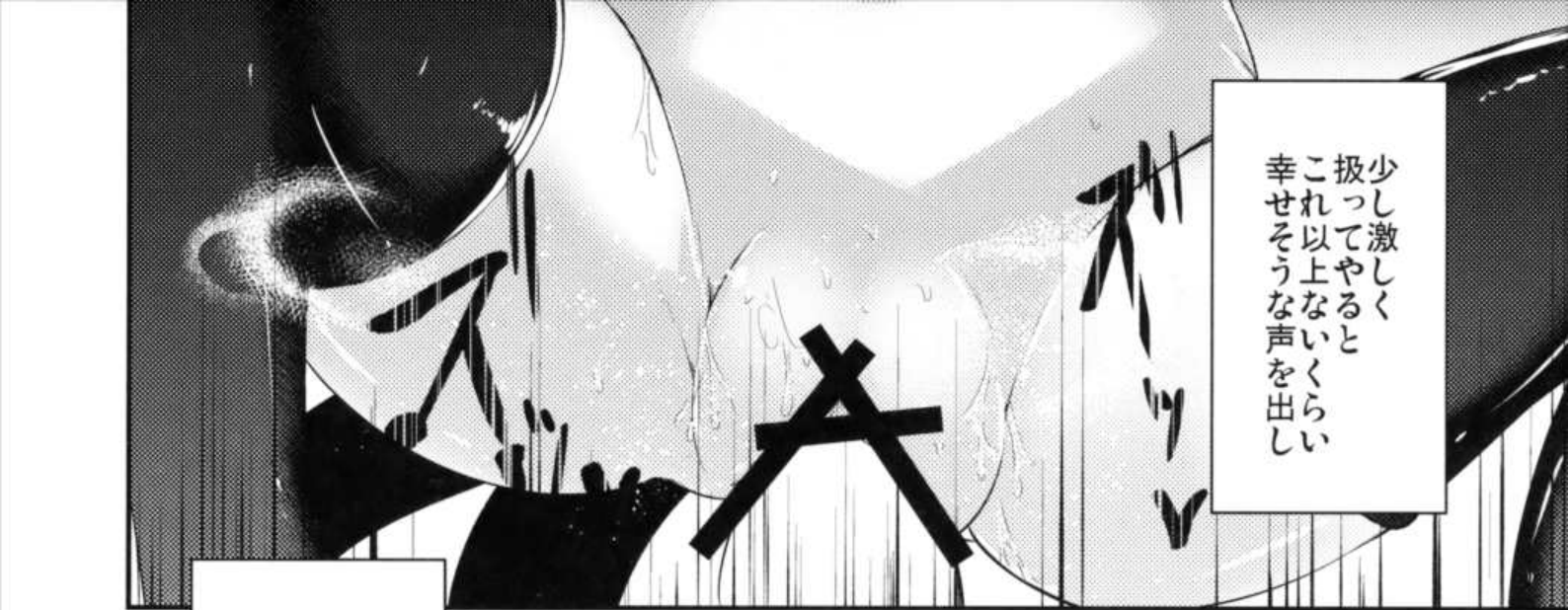
もう何回
出したかどうか




AM 10:48

気づいたら
参加してきており
澄もいつの間にか

小柄な身体を浮かせ
壁に押し付けられた状態で
嬌声を上げていた



少し激しく
扱ってやると
これ以上なくらい
幸せそうな声を出し



そのまま
橙の小さな膣内も
白い欲望で
塗りたくられていく



壁を伝いペタリと
座り込んだ橙の口に
愚息を押し付け掃除させる



何も抵抗なく
舌を這わせてくれる
橙の表情は
最後まで恍惚な表情を
浮かべていた



色々あったが
畑作業も
定刻通りに一段落し

縁側に腰掛け
休憩がてらうとうと
している

AM 11:57

ただいまー♪

スキマから
現れた紫様に
抱きしめられる

当人曰く
補給で一旦
戻ってきたとか
なんとか

先程までの
行為の疲れで
変な気は起きず、

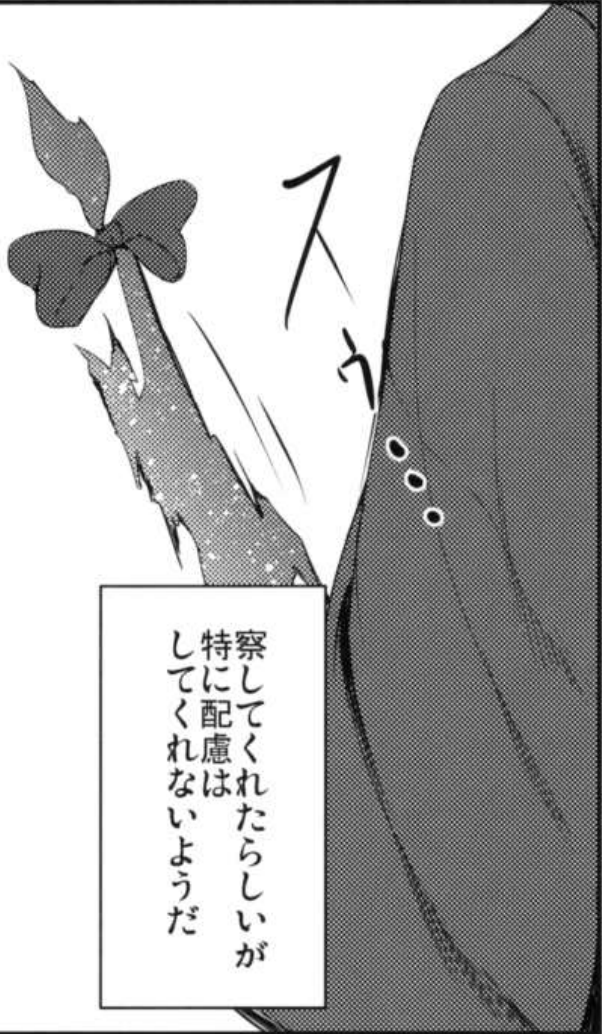
……あら？
どうしたの？

……いえ

ただただ優しく
抱きしめられて
いる

疲れを察して
くれたのか——

ごめんなさい



察してくれたりらしいが
特に配慮は
してくれないようだ



それじゃあ
また夜に——
ね♡



PM 0:00

廊下の方から
昼餉を
知らせる声がある

午後は藍様と
人里へ
行く予定だ——

続

マヨヒガスケジュール AM

2016年 12月29日 初版発行
コミックマーケット91

発行・制作

みどりねこ

みどり

<http://www.pixiv.net/member.php?id=76139>

midori0014@gmail.com

印刷

栄光印刷

謝辞

ZUN (上海アリス幻楽団)

みどりねし